

山口県小学校長会報

発行所
山口県小学校長会
代表者 田中邦明
校長会事務局
山口市大手町2-18
☎ 083-925-2919
FAX 083-925-6776
印刷所
大村印刷株式会社

より確かな信頼関係を築き、
組織としてしつかり動く校長会を



山口県小学校長会 会長 田中邦明

一 はじめに

平成二十八年度末に定年退職を迎えられた校長先生方が四十七名いらっしゃいましたが、今年度新規採用の五十一名の校長先生方にお仲間に入ってください、大変心強く思っております。

昨年度と比べると五校の減ではございますが、二百九十二校が揃って元気にスタートを切ることができ、嬉しく思います。

昨年度、会長に就任した際に、私は平成二十八年度が山口県小学校長会の真価が問われる年度であるとお話をさせていただきました。

なぜなら、前年、平成二十七年度の十月に全連山口大会を前回大会から実に四十年ぶりに、ここ山口市で開催し、全国から参加された約二千七百名の校長先生方から大変高い評価をいただいたからです。

これらの成果に加えて、昨年度も、より着実な取組実践を重ねることがで

きました。

昨年十一月、吉田松陰先生の志を受け継ぐ萩市において開催した秋季研究大会では、十三分科会を十分科会に戻して研究発表と情報交換を行い、充実した分科会を運営することができました。実践発表では、全国共通の喫緊の課題に対して最先端、かつ有効な取組がなされていることがよくわかりました。

中でも山口県が力を入れてきたコミユニティ・スクールの取組は各学校の特色がよく表れており、どの学校においても定着が図られています。全国においても推進的な役割を果たしていると言えます。

このように期待通りの成果をあげることで、平成三十二年度に完全実施となる次期学習指導要領にも十分対応できるものと確信しています。

二 校長の果たすべき役割は

本県校長会は、御存知の通り、理事会においても研修会及び情報交換会を行っています。

昨年度は、平成二十四年度から掲げている基本テーマ『先見性のある学校経営』の中から「危機管理と学校の役割」を年間テーマに決めて、外部講師を招いて先進的な情報を取得したり事例発表に基づいて協議をしたりしてよりよい学校経営を模索してきました。

ここで得た最新情報や学んだことは各市町校長会を経由して、全ての校長先生方に行き渡る仕組みができています。今年度は、基本テーマを継続維持し、年間テーマを「喫緊の課題に対する校長のリーダーシップ」に決めて人材育成や学校の危機管理、業務改善等について研修することになっています。

七月四日(火)に開催された第二回理事会では、「企業における人材育成」と題して、サマンサジャパン株式会社代表取締役社長 守政和浩様に御講演をいただいたところです。大量退職時代を迎え、若手の人材育成が問われています。今年度をなんとか乗り切ればいいということではなく、後に続く教職員が働きやすい環境を整えること、確かな道筋をつけることも私たち校長の果たすべき役割であると考えています。

三 組織としてしつかり動く校長会を

昨年は、熊本県や鳥取県で大きな地震がありました。そして今年度は、福岡県や大分県で、停滞する梅雨前線に伴

う豪雨災害が発生しました。今もなお土砂災害の危険性が高い状態が続いています。また、たくさんの方が被災者が過酷な避難生活を強いられています。

一日も早い復旧と安心・安全な日常生活を取り戻すことができるよう心から願い、同じ小学校の校長として、校長会としてもできる限りの支援を続けていきたいと考えています。また、十月二十日(金)に開催される第六十九回山口県小学校長会秋季教育研究大会(柳井大会)では、研究主題「社会の変化に挑み 高い志をもって未来を切り拓いていく子どもを共に育てる学校経営の推進」に基づき、より一層質の高い研究大会となるよう、小学校長の英知を結集し、協力し合い、総力をあげて取り組んでまいります。

従来からの学力・体力の向上に加え命を守る安心・安全な学校づくりの推進、校長の危機管理、いじめ防止に不登校対応、そして最近ではインターネットトラブルや小学生のネット依存症の問題等、課題山積の時代ではあります。より確かな信頼関係を築き、組織としてしつかり動く校長会となりますよう、今後とも皆様の御理解と御協力をよろしくお願いいたします。

四 終わりに

自らの使命を自覚し、未来を見据え創意ある展望と計画のもと、確かな実行力で校長会の取組を推進したいと考えています。全会員の力を結集し、全力で取り組んでいくことをお誓い申し上げます。就任の挨拶といたします。

研究紹介

学校経営

未来を見据えた学校経営に生かす
評価・改善の推進と校長の役割

「コミュニティ・スクールとしての活動を通して」

美祿市立伊佐小学校長

久保 仁



一 はじめに

美祿市は山口県の中西部に位置し、日本最大級のカルスト台地「秋吉台」や大鍾乳洞「秋芳洞」を有している。平成二十七年には「日本ジオパーク」に認定された。

人口は二万五千名程度、小中学校あわせて二十二校があり約千六百名の児童生徒が在籍している。小学校十五校のうち、十校が極小規模校となっており、複式学級を有する学校の割合が多い。今後、学校の統廃合が予想されている。

美祿市においては、「みね型地域連携教育推進事業」を立ち上げ、学校運営・学校支援・地域貢献の三つの機能に特化して、すべての学校の教育水準と学校経営の質の向上を図っている。小中学校のコミュニティ・スクール化を行うと同時に、計画的に七つの中学校区を重点推進校区として指定し、事業の推進を図っている。

二 研究の視点

「みね型地域連携教育推進事業」への取組とあわせ、児童生徒数が減少する中、市内小中学校の規模や、コミュニティ・スクール導入の時期の違いを考慮し、美祿市校長会としては具体的な研究内容を以下の三点とした。

- (一) 学校・地域・家庭の共同を図る効果的な組織について
- (二) 学校支援・地域貢献を図る具体的な取組について
- (三) 評価・改善に関する具体的な取組について

三 研究の概要

(一) 学校・地域・家庭の共同を図る効果的な組織について

各中学校区全域で無理なく取り組みるものを模索した。

校長・園長が参加する地区保・小・中ネットワーク会議や教職員やPTA・地域関係者による拡大大学校運営協議会の開催

そこでは共通テーマや目指す子ども像・キヤッチフレーズ等を共有した。あわせて共通の十の評価項目を決めた。

(二) 学校支援・地域貢献を図る具体的な取組について

・地域のお年寄りや農協、公民館などの関係団体による「学校支援」の実践
美祿市ならではの小規模校の地域ネットワークを生かした様々な教育支援活動の展開がされた。住民や保護者が多数参加した教育活動を行うことは、児童の豊かな体験や学びにつながった。

・学校という場を地域の方々に開くことで指導者の経験や学習の成果を生かす場になる「地域貢献」の活動事例
地域の老人施設を児童が訪ねたり、公共の場のゴミ収集をしたり、小学校の児童が地域で行われる特徴的な行事やボランティア活動へ参加したりするような直接的な「地域貢献」の活動事例が展開された。

(三) 評価・改善に関する具体的な取組について
コミュニティ・スクールとして取り組んだ結果をより客観的な視点で評価していくツールとして愛媛大学の露口健司教授の協力を得たPPTAの活用
PPTA最大の利点は多くの人数を対象とした正確な基準値が明確になっていること。小規模校の多い美祿市の学校においては重要な視点となる。

学年や学校単位で年次の変化を把握することが可能となり、対全国比と

いう基準をもつことでより客観的に自分の学校の状況を把握することが可能となった。

四 おわりに

(一) 成果

①コミュニティ・スクールとしての活動を通じ、保護者や地域へ学校を開くことで学校は活性化され、学校運営の改善が図られた。

②目指すべき方向性が明確になり、十五校の小中学校全てにおいて、学校経営の水準化・標準化が進んだ。
③長年継続して行われている地域の活動や行事、取組、人々の生活の営みを児童が育つ場・教育の場として再価値化していくことができた。

④地域に根ざした特色ある学校づくりは、ふるさとに愛着と誇りを感じる児童の育成になると同時に学校を核とした人づくり、地域の活性化、元気にもつながった。

(二) 課題

①学校運営協議会の取組の周知と地域へのさらなる広がり
②教職員の参画意識の向上
③学校と地域をつなぐ地域コーディネーターの存在

以上の成果と課題をもとに、更に研究を進めていきたい。

研究紹介

豊かな人間性

豊かな人間性を育む

カリキュラム・マネジメント

効果的な体験活動の充実に向けて

下関市立豊田中小学校長

山本 優



一 はじめに

本支部では、豊かな人間性を育むための、効果的な体験活動の在り方を研究の柱とした。その理由として、教育活動全般を通じた道徳教育や人権教育の推進により豊かな心情が培われるが、今まで以上に主体的な態度や実践力を身に付けさせることが必要であり、学校や地域の実態に即した様々な体験活動が重要であると考えたからである。そこで、これらの活動をより充実させ、より効果のあるものにするための校長の果たす役割について、研究を進めることとした。

二 研究の実際

情報交換や協議を通じて「豊かな人間性」とは何かを整理し、それを育むための必要なポイントをまとめ、次に、各校の実践をもとに、校長としてカリキュラム・マネジメントの実際を共有し、成果と課題をまとめることとした。

(一) 豊かな人間性とは

- ①自分を理解し、生きる目標をもっている。(キャリア教育の視点)
- ②他人の気持ちを汲み取り、行動できる。(人権教育の視点)

(二) 豊かな人間性を育むためには

- ①担任との良好な人間関係を構築する。
 - ②望ましい基本的生活習慣を身に付ける。
 - ③考え、議論する道徳を推進する。
 - ④主体的・対話的な活動を心がける。
 - ⑤感動を共有するための表現力を伸ばす。
 - ⑥効果的な体験活動を仕組み、成果を児童が実感できるような評価を行う。
- (三) 効果的な体験活動とは (実践例を通じて)
- ①地域や学校のよさを生かすとともに、交流等により弱さをカバーする。(多様な体験活動)

- ②コミュニティ・スクールの趣旨を生かして、児童の自己有用感を高める。(質の高い体験活動)
- ④校長の役割とは

- ①活動の意義を常に教職員に共通理解させ、目的から外れる企画にさせない。
- ②活動ごとの評価(児童の変容)を重視し、児童と教職員に充実感を実感させる。
- ③スクラップアンドビルドの視点から、六年間を通じた体験活動の在り方をビジョンとして示し、再構築する。
- ④コミュニティ・スクールのトップセールスマンとして地域に出向き、家庭や地域との連携を強化する。
- ⑤校務分掌・学校運営協議会・PTAとの連携・協働ができる体制作りをする。

- ⑥人材育成の視点から、教職員からの提案を重視する。

三 おわりに

豊かな人間性を育むためには、体験活動が重要であることは自明のことである。一方、社会の急激な変化に伴い、次々と新しい教育課題への取組が必要となっており、限られた時間の中でのカリキュラム・マネジメントは、校長の役割として大変重要である。体験活動を単に増やすのではなく、精選するとともに、他の体験活動と有機的に絡み合わせることでより効果的なものにしていく必要がある。

本市の研究はまだ道半ばであり、来る十月二十日に開催される県校長会秋季教育研究大会(第三分科会)で、これまでの取組を提案するが、その中で、教職員からの積極的な提案を生かしつつ、どのようにスクラップアンドビルドしたらよいか等、具体的事例をあげながら協議を通じて、研究をまとめたい。



高校生の学習支援



高齢者福祉施設での交流

研究紹介

学校安全

子どもの危機意識を高める

安全教育・防災教育の推進

（ ） K Y T の活用・地域連携の取組を推進する
校長の役割とリーダーシップについて

周南市立勝間小学校校長

相川 智 幸



一 はじめに

かつての安全教育は、危険に対する状況や行為に関する知識を与えることに重きが置かれていたが、想定外の事態が発生する昨今では、子どもが「気づき、考え、行動できる」ことによって、自ら危険を予測し回避する力を高めることが、より一層重要になっている。

そこで、本支部では、K Y T（危険予測学習）の有効活用を図ることと、地域と連携したより実践的な取組を進めることに視点を置き、子どもの危機意識を高めるために、校長としてのどのような役割とリーダーシップを発揮すべきかについて研究を進めた。

二 研究の視点

- （一）K Y T を効果的に活用するための体制づくり
- （二）地域連携に視点を置いた学校安全教育への取組の推進

三 研究の実際

（一）K Y T を効果的に活用するための体制づくり

①プロジェクトチーム体制による教職員の組織的取組

ア教育活動プロジェクトのうち、健康・安全に関わるチームを置き、構成員全体で検討し主任が提案するシステムを構築した。イ地域の声を生かし、実際の通学路を題材としたK Y T の資料を作成して指導を行った。



実際の通学路で危険を予測する学習

②年間計画に基づいた継続性のある指導体制

ア学校保健安全委員会のメインテーマの中に位置付け、交通安全・災害安全・生活安全の三領域について計画的に行った。

イ全校朝会の内容にK Y T を取り入れ、毎月指導担当者が交代しながら年間計画に沿って実施した。

（二）地域連携に視点を置いた学校安全教育への取組の推進

①コミュニティ・スクールの機能を生かした取組

ア学校運営協議会委員に防災関係者を任命し、地域防災の観点から学校の取組を検討する組織づくりを行った。

イ学校運営協議会を通して避難訓練に地域からの参加・参観を求め、協力と評価を依頼した。
②地域の防災組織や関係団体との連携

ア地域の自主防災組織等と連携し、学校を使用した避難所体験や通学路の防災点検を実施した。
イ地元企業と連携し、避難訓練や不審者対応訓練を行った。
ウ学校給食を活用した、防災給食体験を実施した。

四 校長の役割

K Y T の効果的な実施のため、校長は児童や教職員の実態を把握し、体制



大型店舗屋上への避難訓練

づくりや担当職員への適切な助言を行うことが大切である。

近年は地域が学校と連携することによって地域の防災に関する意識を高めようとするニーズがある。校長としては、防災教育と地域防災とのバランスのとれた取組が行われるようマネジメントしていく必要がある。

五 おわりに

教職員が高い意識をもって計画的かつ組織的に取り組む体制づくりを校長が積極的に行うことで、児童の危機対応力を高めていくことができる。

一方で、地域コミュニティの中核としての学校の役割がより大きくなり、学校における安全教育・防災教育と地域の取組との連携・融合がますます進んでいくと考えられる。その動きの中で、地域と連携した新たな取組を積極的に取り入れていくには、校長のリーダーシップがますます重要となっていく。

研究紹介

研究項目

健やかな体を育む教育の創造

～地域や学校の実態を生かした協働～

岩国市立美川小学校長

山 中 尚



一 はじめに

本支部では、健やかな体を育む教育の軸として「地域との協働」を取り上げた。

ここでは、協働の実際を「生活習慣の形成に関する取組」「体育科授業の支援に関する取組」「地域の特色を生かした取組」の三点に分類し、成果と課題について考察することを通して、校長の役割や指導性について研究を進めることとした。

での取組を充実させる。

② 学校保健安全委員会を小中合同で開催し、取組の共通理解を図る。

また、地域住民を交えた熟議を通して地域の「思い」を児童に伝える。

③ 地域の教育団体と連動した校内プロジェクトチームを組織して地域と連携した取組を推進する。

④ 地域協育ネットの枠組みを活用して、小中が連携して取組の一層の

充実を図る。

(二) 体育科授業における協働

① 高学年の泳力向上や泳ぎの苦手な児童の指導が中心の授業支援により、児童の技能向上とともに教員の指導力向上を図る。

② 安全を見守る「目」を増やすため、保護者にプールサイドからの監視支援を募る。

③ 着衣水泳など命を守るための学習を教育課程に位置付け、地域の専門家に指導を依頼する。

(三) 地域の特色を生かした協働

① 地域に根付いたスポーツに親しむことで、「健やかな体」づくりの習慣化を図る。

② 地域人材の活用を通して、地域の活性化と教育への有用感の向上を図る。

③ 地域の特産品を扱った「食育」を通して、ふるさとへの誇りや愛着を醸成する。

割

(四) 教育課程の中に位置付けるための理由や期待される効果について説明する「経営者」としての責任

五 おわりに

本研究を通して、地域の「ひと・もの・こと」を財産としてとらえ活用すると同時に、そこにある「思い」を理解して、地域協育ネットやコミュニティ・スクールを活用して協働することが「健やかな体」の育成はもとより「未来を拓く、たくましい、やまぐちっ子」の育成に非常に有効であることを再確認することができた。

今後も、より多くの人に「協働」に関わってもらうための工夫について研究を進め、「健やかな体」の育成に取り組んでいきたい。

三 研究の実際

(一) 生活習慣形成のための協働

① 学校保健安全委員会をベースにして保護者に働きかけることで家庭

二 研究の視点

(一) 生活習慣形成のための協働～アウトメディアへの取組を中心に

(二) 体育科授業における協働～水泳指導での事例を中心に

(三) 地域の特色を生かした協働



地域の方の思いを聞く

四 校長の役割・指導性

(一) 実践を振り返り、新しい取組や協働の働きかけなど、戦略的な仕掛けづくりを推進する参謀兼リーダーとしての役割

(二) 地域とのつながりを深め地域資源を把握し、協働を進めるための情報源としての役割

(三) 地域を担う子どもたちや在籍する教職員に地域の誇りやよさなどを「思い」を伝える「代弁者」としての役



地域指導者によるスキー教室

支 部 情 報

宇 部 支 部

地域の学習資源や

学校の特色を生かす

宇部市は、常盤公園に象徴される「緑と花と彫刻のまち」である。教育の基本理念「夢・絆・志 ふるさとを愛し、未来を拓くひとづくり」を掲げ、その一環として、湖畔の施設を活用した自然体験学習、特産「赤間硯」を使った習字教室、野外彫刻の鑑賞授業など、本市の学習資源を生かした特色ある様々な教育事業を展開している。

さて、本年度の宇部市小学校長会は、新任六名、再採用一名、転入一名を加えた二十四名でスタートした。

定例の校長会では、研修テーマを「先見的で創意あふれる学校経営ビジョンの策定・周知」と定め、秋季教育研究大会（柳井大会）での発表に向けた準備を進めている。研究部長のリーダーシップの下、「豊かな学力」「豊かな心」「健康やかな体」「安



心・安全」「ビジョンの全体像」のグループに分かれ、学校経営ビジョン策定の具体的方策と成果、校長の果たすべき役割と指導性等について協議を重ねてきた。研修を通して、その内容とともに、校長会としての絆も深まっている。

また、研修や各種協議と併せて、会場校の授業参観や学校運営の説明が行われる。ここでは、各校の特色ある取組やそれぞれの課題への対応の仕方が丁寧に語られる。それぞれの地域の学習資源や人材等を生かした手法や工夫も紹介され、大いに参考となる。

ところで、「特認校就学制度」をご存じだろうか。これは、小規模で特色のある学校でしっかりと学びたい・学ばせたいという子ども・保護者の願いの下、住所地によって指定された学校ではなく、特別に指定された学校に就学できる制度である。

宇部市では、平成十七年から、北部の小規模の小学校五校（中学校一校）が「特認校」に指定され、現在、二つの小学校に特認の児童が通っている。

市北部の豊かな自然は素晴らしい学習資源であり、少人数であることは学校の特色であり、生かすべき強みでもある。なお、保護者がこの制度の利用を考える際には、学校の立地場所や交通の利便性等、諸々の現実的な事情も少なからず関係する。ご参考までに。

（厚東小学校 岡崎清美）

「縁と絆」



宇部市立船木小学校長 栗林孝幸

「縁あって船木小学校に着任いたしました。みなさんと絆を結びたいと思います。」と職員に着任の挨拶をした。

「縁と絆」を大切にしたいと思っています。「縁は神が結び、絆は人が結ぶ」とある方から教えていただいた。本当にその通りだと思う。

私はこれまでも人に恵まれてきた。特に、新採で着任した平生町立平生小学校は今の私の原点となっている。そのときに同学年として一緒に働いていただいた西岡立夫先生は、その年に退職されたので現場では一年間のおつきあいであった。しかし、その一年間に教えていただいたことは、今でも色あせることなく、私の教師としての在り方の原理原則となっている。

新採時代、毎日学校に出勤するのが楽しみであった。前の晩から明日は何を学べるだろうとわくわくし、早く夜が明けないものかと思っていた。西岡先生はじめ当時の平生小学校の先生方には感謝してもしきれない。

船木小学校が、児童や職員、地域の方や保護者にとって、明日も来たい、来させたい、わくわくする学びで満ちた、感謝と感動があふれる学校であるために全力を尽くしたい。

新校長の声

地域とともに



岩国市立宇佐川小学校長 村上尚乃

本校に赴任して、学校周辺を歩いていると、「新しい校長先生？」と地域の方が声をかけてくださった。私自身が「校長先生」と呼ばれることに慣れておらず、声をかけてくださるたびに、身の引き締まる思いがした。

二年ぶりに入学式があり、全校児童は五名。最高学年は四年生。極小規模校だが、子どもたちが登校してくると、急に学校は活気づく。素直で元気いっぱいの子どもたちである。

本校は、「地域とともにある学校」として、様々な教育活動を地域・家庭と一緒に進めている。入学式も来賓以外に地域の方が来てくださった。花壇作業やプール掃除なども地域・家庭が協力してくださる。バードウォッチングや体力測定など、学校公開の授業も一緒に取り組める活動を企画している。「入学式にお越しください」「お茶摘みをお願いします」などのお知らせを地域に回覧したり、バス停や公共施設に掲示したりすると「地域お助け隊」がそれを見て協力してくださる。子どもたちが地域の中で、すくすくと育っているのを感じる。この取組を受け継ぎ、充実させていきたいと思う。



本年度着任した下関市立蓋井小学校は、日本海に面した響灘に囲まれた蓋井島にある。

島は海岸線が約十キロメートルあり、そのほとんどが断崖絶壁となっている。平成二十九年年度の児童数は、男子四名女子二名計六名である。

蓋井小学校の児童は、豊かな人情と個性が備わっており、その根幹となっている大きな要因がこの地に息づいてきたつながりあう力であると感じた。

例えば、蓋井島は離島であるため医療機関、食堂、ガソリンスタンド等は存在しない。しかし、生活物資の不足等を住民同士がお互いにカバーし合って生活している。燃料を島内に運び販売してくれる方、島に赴任した教員の栄養管理を考えて日々の食事を提供してくれる民宿、学校の壊れかけた温室を修理してくれる保護者。魚が多めに水揚げされたり、料理を多めに作ったりしたときには分け合うという光景もよく目にする。決して物が簡単に手に入るわけではないが、人々の相互扶助の精神が島での生活を豊かなものになっている。

同様に小学校は地域から常に見守られていることを実感している。普段のこのような生活の中で育まれてきた児童は、おのずと人とつながる力を身に付けてきているように感じる。

そのような力は、行事においても育

まれている。本校の行事には未就学児が数人集まるのが恒例となっている。児童は指示するまでもなく、小さな子どもたちに声をかけ、よく面倒をみている。行事の終わりには児童が子どもたちに、折り紙で手作りしたお土産を手渡している。児童自らが考えた行動に参加された方、みんなが笑顔に変わる。

蓋井島での大運動会は学校職員と島内の方々が力を合わせて実施する大きな行事となっている。学校と島の関係者が力を合わせ、成功に導こうとする一体感があり、充実感がある。

このように学校では、蓋井地域とのつながりを大切にしながら様々な伝統的な教育活動を進めている。今後も学校職員一同、教育者としての視点をもとより、地域・保護者・児童の視点をもって蓋井小学校の特色ある教育を推進していきたい。

特に学校教育のあらゆる場面で、児童のつながりあう力の育成を常に意識しておきたい。

つながりあう力

下関市立蓋井小学校長 林 意 知 朗

目 長 耳 飛

「夢」

美祿市立別府小学校長 中 村 哲 也



「あなたの夢は何ですか。」
そう聞かれたら、何と答えるだろう。

確かに、小さい頃には現実的や空想的ないろいろな夢をいっぱい思い描いていた記憶がある。

それが、いつしか健康や目の前の小さな幸せ（美味しい物を食べる、景色のよい風景を見る、など）に変わっている。

それが、悪いとは思わない。ましてや、日常にある小さな幸せこそ、夢に描いた「幸せな未来（＝夢）」とも思え、十分満足である。

では、子どもの頃に描いていた夢は、今はもう描けないのだろうか。もつことは難しいのだろうか。正義のヒーローになりたいたい、一流のスポーツ選手になりたい、お花屋さん、ケーキ屋さん、思いつきだけで心が高鳴り、わくわくした気持ち溢れてくる。

数年前、テレビを見ていたときのこと、あるクレジットカード会社のコマースシャルに思わず見入った。湖畔にキャンプに来ている父親と娘

のやりとりだった。
父：「りな（娘）の将来の夢は何？」
娘：「パパみたいな建築家になること」
父：「えっ！」
娘：「だって格好いいんだもん」
娘：「じゃあ、パパの将来の夢は？」
父：「えっ。だってパパはもう・・・」
こんなやりとりの後、テロップが現れる。

「いっそ、もつと、輝こう」
思わず、自分の将来の夢は？と考える自分がいた。

目を輝かせながら何事にも熱中していたあの頃の自分。そして、押さえよれない好奇心と行動力。
これが、今の自分の礎となっている。夢の計り知れない大きな力に、今更気付いた瞬間であった。

平成三十年三月、一四〇年を超える長い歴史の本校は、閉校を迎える。しかし、これまでも統廃合を繰り返して、現在の別府小学校がここにある。つまり、未だ歴史の途中であり、伝統はさらに受け継がれていくのである。

その主役となる子どもたち、そして保護者や地域の方々、ともに「いっそ、もつと、輝く」学校を、教職員とともに夢を掲げ、精一杯作り上げていきたい。
これが、今の私の夢である。

数多くの映画やテレビドラマに出演。劇団設立後は、脚本家・俳優、そして小説家としても大活躍の室積光（むろつみ ひかる）さん。活動の拠点を東京から生まれ故郷の光市に移され、現在、室積の自宅で執筆活動に邁進。ふるさとや創作活動への想い、そして若手俳優育成のこつや現在の夢などについて伺いました。

***なぜ、活動拠点を東京からふるさと光市に移されたのですか。**


光市はとても住みやすく、大好きなまちです。今はインターネットや交通網が発達し、とても便利になってきているので、メールでのやり取りで済む仕事であればどこでもできます。情報量も確保できるなら、都会よりもむしろ田舎の方が効率がいいと思いますよ。目の前にきれいな海や山があり、魚もおいしい、買い物に行くのにも道路事情がよく、スーパーの駐車場だって広い。光は便利でいい所です。しかも知っている顔が多く、Uターンして帰って来た友達もいますしね。東京で仕事があるときにはホテル住まいをすればいいし、東京にいるときの家賃に比べるとずっと安い。だから、不便は感じていません。

***脚本のみならず、山口の歴史や光市を題材にした小説もたくさん書かれていますね。**

『埋蔵金発掘課長』でも話題にした

埋蔵金、ほくは絶対にあると思いますよ。いろいろ調べてみると、田布施あたりにあるんじゃないかとらんでいるんですが・・・とにかく埋蔵金で光市のイメージを明るくしたいんです。この七月に出版した『遠い約束』は十八年前から上演している芝居を今回、小説化しました。

この人 この歩み
郷土の魅力再発見！
～光市発全国へ～



作家・俳優・劇団「東京地下鉄劇場」主宰
室積光さん (本名：福田勝洋)

いて、戦争の事実や人々の思い、願いを伝えていかないと・・・教科書に書いてあることだけではだめですよ。

***劇団の俳優さんは創設以来どなたもおやめになっていないようですが、どのように育てていらっしゃるのですか。**

役者はみんな楽しそうに稽古場に入って来ます。まさしく「これを知る者はこれを好む者に如かず。これを好む者はこれを楽しむ者に如かず。」ですよ。劇団員とはよく意見を交換しますね。押し付けることはしません。自由に演じていいが、手間を惜しんではいけない、意見があつたら俺を納得させてみるって言っています。

***室積さんはどんな夢をおもちですか。**

劇団員にいい思いをさせてやりたいです。彼らが僕に付いて来て良かったと思う瞬間が欲しいです。だから、やりたいことが沢山ありますよ。

作者が取材を重ね、全国で約100回上演し、観客の涙を誘ってきた脚本を小説化。『遠い約束』お勧めの1冊です。



に直接話を聞いて、願いを伝えていかないと・・・教科書に書いてあることだけではだめですよ。

「生涯現役」でいたい、そのためには健康が一番という室積さん。光高等学校時代にはバスケットボール部で活躍。還暦を過ぎた現在もバスケットボールチームに所属されています。とてもエネルギーが豊富な室積さんはまさしく現役そのもの。さらに輝いておられました。
(光市立三輪小学校 大浪知子)

本部だより

平成二十九年年度の小学校長会総会が、新会員五十三名を迎え計二百九十二名となって、去る五月九日に開催された。昨年度の諸事項が承認されたのち、役員改選が行われ、田中邦明会長のもと新たな役員を加えてのスタートとなり、活動方針及び事業計画、予算、各専門部からの提案等が承認された。

本年度は、新しい学習指導要領の趣旨を踏まえた対応を具体化する年となる。その一つは、枠組みづくりである。高学年からの外国語及び中学年からの外国語活動の導入、特別の教科道徳の新設等による指導計画の作成とともに、中学年以上の週あたり授業時数増への対応は、喫緊の課題である。もう一つは、学習指導要領改訂の基本方針に示されている内容への対応である。特に、「何を、どのように学ぶか」に関わって、「主体的・対話的で深い学び」を実現するためにカリキュラム全体をマネジメントすることが必要になってくる。忘れてはならないのは、職場としての課題である。働き方改革が進められる中、多忙極まる各種業務を見直し、全教職員で改善しなければならぬ。

校長会には、一昨年示した結束力をばねに、情報を共有し連携を図りながら、各課題を解決していくリーダーシップの発揮が一層求められている。